

## 令和1年度 第2回岐阜市立図書館協議会議事概要

開催日時：令和1年11月20日（水）午前10時00分～11時30分

開催場所：ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席者：アンドリュー・デュアー委員長、高橋綾子副委員長、天野治子委員、  
石田晴美委員、蒲勇介委員、栗本聖士委員、武山康弘委員、林恵哲委員、  
前田利之委員、松井勅尚委員、山田智直委員、米原木ノ実委員  
（事務局）吉成館長、川合副館長、中村係長、長尾係長、岸田係長、白崎係長、稲川係長、  
今尾副主査

傍聴人：なし

議事概要：

### ■報告や事務局提案に対する委員からの意見

#### 1 岐阜市立図書館の利用者実績について

- ・利用者は貸出利用者だけではない。利用者の概念を捉えなおしつつ実績を検証していかなくてはならない。
- ・具体的な目標・計画に対する成果が見えるようにしてほしい。
- ・長期的な視座に立って実績の評価をするべき。
- ・市のマスタープランに沿った施策を行っていることをアピールするといい。
- ・図書館の利用カードは市民のアイデンティティになりうる。転入時や出生時などにカードが作れることを転入窓口等で案内するなど行政サービスとの連携ができるといい。
- ・赤ちゃんの定期健診時に保健所で利用者カードをつくる「絵本といっしょ」事業はとて面白い取り組みである。
- ・保護者のカードで子供の本を借りている場合もあるので統計上は注意が必要。
- ・藍川地区や三輪地区は図書館に行くのが困難。図書館へのアクセスができるよう岐阜市として考えてもらい。
- ・中央図書館の利用者が開館を機に大きく増えたことを考えると分館や図書室にも新たな利用者を掘り起こすことは可能と考えられる。
- ・最寄りの図書室で中央図書館の本を受け取ったり返却したりできることなど便利なシステムをもっとPRしてはどうか。
- ・若年層の利用を喚起するため学習参考書などを置いたり、スマートフォンで利用できる電子書籍を導入したりするなど彼らのライフスタイルに合わせたサービスをしてはどうか。
- ・図書館イベントについて高校や大学にも広報を広げるといい。
- ・本によって貸出期間を変えるなどのサービスがあるといい。
- ・図書館の施設を中高生が来たくくなるようなおしゃれな施設にしていくような投資をしてもいいのではないか

#### 2 地域の課題解決に向けた図書館の行政支援について

- ・行政のマスタープランを踏まえることは大事なことだが、表現の自由や文化の独立性の面では懸念もある。図書館は行政からは独立した懐の広さを持ってほしい。

- ・図書館のシビックプライドライブラリーが地域の課題解決を提示し、市民が参画できる入口となるといい。
- ・図書館の自立性とプライドがしっかりと確保されなくてはならない。行政の啓発等に図書館が使われるのではなく図書館なりのキュレーションがされている必要がある。
- ・シビックプライドは目標ではなく結果として育まれるもの。
- ・国家のプロパガンダと違い、地方がその地域や文化に対する市民の帰属心や興味を育むための支援はあってもいいのではないか。
- ・図書館が行政課題に引っ張られすぎるとせっかく図書館を好きな人が来なくなるのではないか。市民の課題解決を担う図書館本来の役割を大事にしてほしい。
- ・行政資料を市民が気軽に見ることができる図書館の役割も重要。
- ・市民に補助金の案内をしたり関係窓口に案内したりするなど、関係部署につないでいける機能があるといい。
- ・インターネットの記録も行政資料としてあると助かる。
- ・地域課題を行政とは異なる視点から解決していくためのサービスを図書館で提供していくといい。

### 3 その他

- ・読書バリアフリー法が6月に施行された。視覚障がい者や読書が困難な人たちに等しく読書環境を提供することが求められる。現在は対面音訳の利用が予約制になっているが、一般の人と同様に予約しなくても気軽に利用できる形が望ましい。